

山陰・鳥取 はくとじんじや

白兔神社

大國主命と八上姫との縁を取りもたれた縁結びの神様



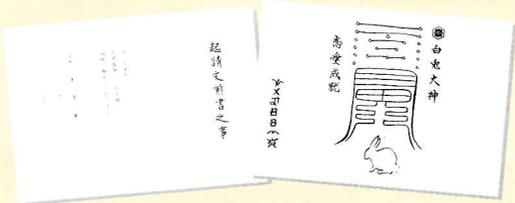
HAKUTO JINJYA



ガマの穂

- ◆元旦祭 一月一日
- ◆春季例大祭 四月十七日
に近い日曜日
- ◆秋季例中祭 十月十七日
に近い日曜日

御輿途御



神の御前で永遠の愛を誓うための「起請文」



道の駅 神話の里白うさぎ



大國さまモニュメント



- JR/鳥取駅下車 バス/宝木、浜村、青谷方面線40分
白兔神社前下車 徒歩5分
- タクシー/鳥取駅より20分 ■ 駐車場完備

白兔神社

鎮座地/鳥取市白兔宮腰603番地
社務所/鳥取市白兔592 TEL0857(59)0047

白兔観光協会 事務局/鳥取市白兔884-1 TEL0857(26)0120

例大祭

昔、出雲の国に、大國主命（おおくにぬしのみこと）という神様がおりました。命（みこと）には八十神（やそがみ）と呼ばれるほどのたくさんのお兄さんがいて、命はそんな大勢の神様兄弟の末っ子でした。

ある日、八十神たちが連れだって因幡の国へ出かけたことになり、命は全部のお兄さんたちの荷物を入れた、大きな袋を背負ながらついてゆきました。袋があまりにも重いので、命はお兄さん達よりずっと遅れてしまいました。

先をゆく八十神たちが因幡の浜辺にさしかかると、しくしく泣いているのがおりました。よく見ると体中の毛をむしり取られた丸裸のうさぎです。いたずら好きの一人の神様が「海の水でよく体を洗って、山のとつぺんで風に乾かすとすぐ治るぞ」と教えてました。うさぎは喜んですぐに海の水で体を洗い始めます。それを見て八十神たちは「あはは」と笑いながら行ってしまいました。

海の水は塩水です。毛をむしり取られた肌には、ピリピリみてとても痛みます。それでもうさぎはやつのことで我慢して、今度は山のとつぺんで肌を風にさらします。塩に痛められ赤剥けになった肌は何千本の針が突き刺さるようでもまったものではありません。とうとううさぎは大声で泣き叫び浜辺に下りてゆきました。

いなばのしろうさぎ 稲羽の素菟



ちょうどそこへやって来たのが大國主命です。命が「どうしたのか」と優しく訊ねると、うさぎは先ほどの八十神の仕打ちを話しました。また、そのももとうしを毛をむしられることになったのか、その訳をうち明かしました。

「大水で海の方こうの島まで流されてしまった因幡の白うさぎは、何とか陸に降りたいけれど船がありません。そこで悪知恵を働かせ、海に住むワニに「ワニの仲間とうさぎの仲間とどちらが数が多いか比べよう」と持ちかけました。「それはおもしろい」とワニは仲間を呼んで岸まで一列に、橋のように並びます。うさぎはその上を、びよんびよんとワニの数を数えながら渡ってゆきました。ところが渡り終わったとたんうさぎは憎たらしく、あかんべーをして「僕は岸に戻りたくて君たちをだましたのさ」と言ったものですから、ワニは怒りに怒ってたちまちうさぎを丸裸にしてしまったのです。」

その話を聞いて、命はうさぎを哀れに思い「川の真水で体を洗い、川岸の蒲の穂の上でゆっくり休みなさい」と教えました。うさぎがその通りにするとたちまち痛みが取れてすーと楽になってゆきました。うさぎはとても感謝して「もう二度と嘘はつきません」と約束しました。

ほどなくして、赤剥けだった肌にはフワフワと白い毛が生え、もとの白うさぎに戻ることが出来たそうです。

「因幡の白兔」で有名な白兔神社は 古事記・日本書紀に記されている 由緒の明らかな神社です

御祭神

白兔神を主神とし保食神を合祀しています



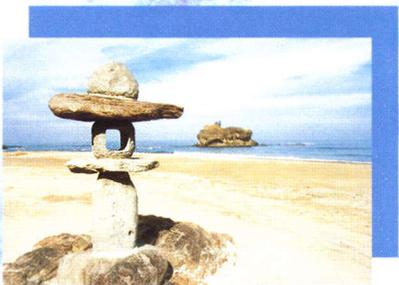
古事記に曰く淤岐ノ島に流された兎、海のと瀬を敷きて気多ノ前まで渡らむとせしが敷きを知りたる和邇により悉く衣服を剥がれ泣き悲しむ兎に八十神の命もちて海盪を浴みて風に当り伏せれば前にも増して痛みはげしく、ここに大穴牟遲神（大国主命）その兎に教へたまはく「今急くこの水門に往きて水もて汝が身を洗ひて、水門の蒲黄を取りて敷き散らしその上に輾転せば汝が身、本の膚の如必ず差えなむものぞ」と教へたまひき。かれ教の如せしかば、その身もとの如くなりき。……このことから日本の医療・動物医療の発祥の地と云われ、古来皮膚病治療に靈験あらたかな神様です。尚、大国主命と八上姫との縁を取りもたれた（仲人された）縁結びの神様でもあります。

神社は往古兵乱に遭い、祠廟古書など焼失し、創立は明らかでないが現在の神社は、武門武将の崇敬厚い鹿野城主亀井武藏野守茲矩公が慶長の末再建されたものです。（本殿のみが当時のものです。）



身洗ノ池（不増不減の池）

社前の凹地、常緑樹に覆われた周囲一〇メートルばかりで、往古は内海（白兔の旧地名）池の流出口であったので、水門と呼んでいましたが、内海池が良田と化してから、僅かにこの池だけが残っています。神話にある白兔神が、傷口を洗ひ蒲の花を採って傷につけられ、全治したると伝えられる霊池です。



恋島

杖突坂の下り口の砂浜に、一部露頭を見せている小島で、大国主命がこの島で八上姫を恋い給うたために名付けられました。安政五年に地元若衆によって一番高い神楽岩の上に石燈籠が建てられました。

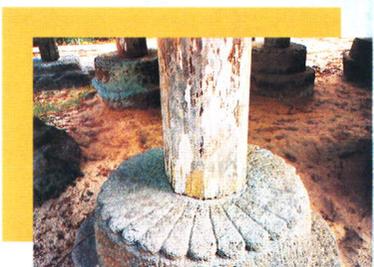


杖突坂（恋坂）

気多ノ前を上った高尾山の中腹にある坂で、大国主命が八十神と共に八上姫を恋慕いて通られた坂で、この先には山坂がないからと、坂を下りた所に杖を突き立て立ち去られました。この杖の跡から、清水が湧き出したという伝説が残されていて、今もなお白砂の中から清水が湧き出て、枯れることがありません。

身千山

社用地の南、日当たりの良い砂山で、帯に黒松が生い茂っています。往古、白兔神が蒲の花を敷いて、傷ついた神体を干し給うた山であると伝えられています。今は山全部を失って平な土地のみが残っています。



菊座石

本殿を支える上台石（六ヶ）に菊の紋章が彫刻（二十八弁）してある。近郷の社はもちろん、全国的にも珍しい。神社創設が皇室と何らかの関係があったものと云われている。



天然記念物

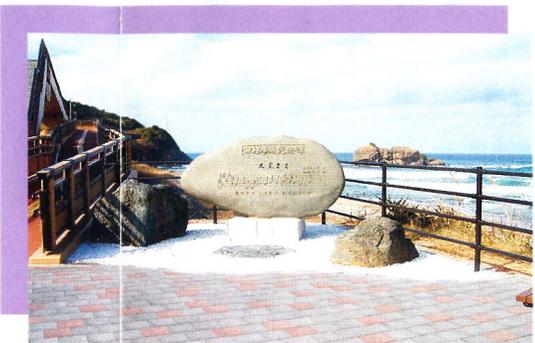
- （1）ハマナス自生南限地帯（国指定大正十一年三月）
- （2）白兔神社樹叢（国指定昭和十二年十二月）

歌碑

昭和五年の勅題「海辺の巖」に、当地気多ノ前の情景を和歌により、詠進された北里蘭氏は、入賞の栄誉を受けられた。それを記念して、緑の地（気多ノ前）に歌碑を建立。その後昭和六十一年に白兔神社参道に移設奉納された。

白兔海岸

神社の北方一五〇メートルの海岸で、白兔神と和邇族との古戦場でありました。海岸は、東は岩木の鼻、西は気多ノ前で限られ小さな湾になっています。海水は清く澄み、海底の砂が数えられるくらい透明です。夏は東方の水平線からの日の出、夕方は、西の海上への夕日のながめ、実に絶景です。



淤岐ノ島

気多ノ前から約一五〇メートル沖合にある神話の島で、白兔神が流れていた島と言われています。沖の平坦な所は千畳敷と言われ、東西に通ずる洞窟もあります。最も高い所は十メートル余、頂上に黒松、緑草が育ち、四方の眺望は誠に美しいものがあります。岩は第三紀層角礫岩で成り、明治維新前この島は、池田藩主の遊覧地でした。

気多ノ前

白兔海岸の西端に突出した岬で、白兔神の上陸地と云われています。

鰐の背に 似たる岩見ゆ

蒲ならぬ 波の花散る 気多ノ御前に